

神戸ハーバーランドまちづくりフォーラム 安藤忠雄が語る 『世界都市・神戸をつくる』

世界を舞台に活躍する安藤忠雄氏。

7月26日に神戸ハーバーランドスペースシアターでおこなわれた講演会には、
あふれんばかりの聴衆が駆けつけ、
神戸のまちづくりの未来を明るく照らす言葉に耳を傾けた。



熱弁を繰り広げる安藤忠雄氏(プロフィールは52ページ)

こんな街中のそれもイベント
ホールで講演するとは、神戸市
は面白いことを考えますね(笑)。

今年の10月から神戸がビエン
ナーレをおこないます。このビ
エンナーレというものは世界中で
おこなわれている2年に1回
開かれるアートや建築のイベン
トです。その中でもベニスは有
名で、もう100年以上前か
ら続いています。まちづくりに
古い建物を生かしていく、17世
紀の建物を改装し、新しい感性
で現代的に変え活用しています。
そこでは現代アートに触れ新し
いものを発想する素晴らしい機
会を与えてくれますが、神戸で
もそのようなものをまちの中に
組み入れたらいのではないか
と思います。

らおうという試みがなされています。

神戸は、北野町あたりをもう少し改善する必要があります。
現状では人は来るけれどあまりお金を落とさない、すぐに引き返してしまいます。私は1970年代に入つてから、北野町の異人館を保存する運動をしていました。また同じ頃、北野のローザガーデンの設計をしていました。そのひとつ、海洋博物館を私が担当していました。3年後に着工、5年後には完成しますが、それを機にビエンナーレをしようと動いています。この他にも上海や韓国などあちこちの国で、芸術祭としてのビエンナーレが行われ、芸術を通して世界中の人に来てもらおうという試みがなされています。

神戸のほかにも、かつて四国への連絡船が出ていた宇野港の環境を取り込んで、高松、直島、坂出をネットワークした瀬戸内ビエンナーレの構想があります。ドバイで知られるUAEという国首都・アブダビでは、4つの埋立地に4つのミュージアムを建築する計画があり、4人の建築家がそれぞれ担当することになりました。そのひとつ、海洋博物館を私が担当していました。その後、街の雰囲気や異人館のような建物を残し、新しい建物も異人館に即したような建築にして、街そのものを再生していくことができないかということを考えました。運動は一応の成果をあげましたが、現在ではお店ばかりが増えすぎているのが少し問題なのではないかと思

うのです。ヨーロッパの建物を
日本的な感覚で作り上げた異人
館のような建物は、他には長崎
に少しある程度ですが、これら
をもつとうまく利用してまちづ
くりに活かせないかと考えてい
ます。人を呼ぶために何ができる
と思います。街は、そこに住む人々
の人生に大きな影響を与えるの
です。

こここのところ元気のない日本
人ですが実は、世界中から羨ま
しがられていることがあります。
それは、長寿です。だいたい女
性の方が元気で長生きですが、
それはなぜかというと、好奇心
旺盛だからなのです。長生きの秘訣は、私は
好奇心だと思うのです。そのため
に遊びに行ける場所、好奇心を受け
とめる場所を作つておかなければ
いけない。日本は世界一の長寿国
でありそれに関しては大変素晴らしいのでは
ないかと思います。

明石海峡大橋渡つて
瀬戸内海の島の緑を回復させる
ために、募金で百万本を目標に
25万本を目標に白い花の咲く木
を植え、最終的に30万5千本
の植樹を達成しました。また、

すぐのところに淡路夢舞台が
あります。この敷地はもともと、
関西空港の埋立用に甲子園球場
の約190杯分の土砂を採取
した跡地でした。ゴルフ場をつ
くりたいというアイデアがあり
ましたが、当時の貝原知事が次
の時代の子どもたちのために自
然とともに遊べるような場所に
しなければと、国際会議場と植
物園をつくろうということを考
えられました。このような大胆
なことを言い出したのが兵庫県
兵庫県民は治山治水も含めてみ
んなで森にしていこうというこ
とで植林したのです。人間が自
然を破壊することもできる。け
れども、森をつくりなおすこと
もできるのです。

震災復興の一環で立ち上げた
緑化活動基金、ひょうごグリ
ンネットワークでは、12万5
千という震災復興住宅の数の倍、
25万本を目標に白い花の咲く木
を植え、最終的に30万5千本
の植樹を達成しました。また、
神戸は日本の都市の中で一番
美しい街だと思います。それを
もつともっとレベルアップして
いくためには、街の人たちが皆
で力をあわせていくことが肝心
です。そうすれば、神戸は訪れ
る人々の好奇心を受けとめるこ
とのできる、より魅力的な街に
発展していくでしよう。この「美
しい神戸」の実現は街の人たち
だけでなく、街を歩く人たちに
もかかっています。お互に心
の通う中でまちづくりをしたら
いいですね。市民一人一人が、
まちづくりは自分達の手で進め
るものだという意識を持つべき
だと思います。



会場は静かな熱気に包まれた

植林する「瀬戸内オリーブ基金」

の活動を中坊公平氏と共に呼び
かけています。自分たちの自然
環境を守ることによって、美し
い日本の国をより美しくするこ
とができるのです。植えた樹木
がすくすくと育つていく姿に新
しい力を感じることができます。

すぐのところに淡路夢舞台が
あります。この敷地はもともと、
関西空港の埋立用に甲子園球場
の約190杯分の土砂を採取
した跡地でした。ゴルフ場をつ
くりたいというアイデアがあり
ましたが、当時の貝原知事が次
の時代の子どもたちのために自
然とともに遊べるような場所に
しなければと、国際会議場と植
物園をつくろうということを考
えられました。このような大胆
なことを言い出したのが兵庫県
兵庫県民は治山治水も含めてみ
んなで森にしていこうというこ
とで植林したのです。人間が自
然を破壊することもできる。け
れども、森をつくりなおすこと
もできるのです。

震災復興の一環で立ち上げた
緑化活動基金、ひょうごグリ
ンネットワークでは、12万5
千という震災復興住宅の数の倍、
25万本を目標に白い花の咲く木
を植え、最終的に30万5千本
の植樹を達成しました。また、
神戸は日本の都市の中で一番
美しい街だと思います。それを
もつともっとレベルアップして
いくためには、街の人たちが皆
で力をあわせていくことが肝心
です。そうすれば、神戸は訪れ
る人々の好奇心を受けとめるこ
とのできる、より魅力的な街に
発展していくでしよう。この「美
しい神戸」の実現は街の人たち
だけでなく、街を歩く人たちに
もかかっています。お互に心
の通う中でまちづくりをしたら
いいですね。市民一人一人が、
まちづくりは自分達の手で進め
るものだという意識を持つべき
だと思います。

瀬戸本淳氏 安藤忠雄「まちづくりを神戸から」 対談

対談

「まちづくりを神戸から」
瀬戸本淳氏

対談

安藤忠雄氏は講演のあと、神戸を代表する建築家、瀬戸本淳氏と語り合った。話題は昔話から未来まで
神戸から世界へと。

瀬戸本
安藤さんと最初に出会ったのは40年くらい前、神戸大学の水谷穎介先生の研究室だったと思います。私は学生だったのですけれど、神戸の街の調査のアルバイトをしていました。青谷あたりの家をまわり一軒一軒のプランを描き、先生のところに持っていくのですけれど、後日、それが安藤さんの作品に役立つていったのかどうか聞きたかったのですが。

安藤 私は水谷先生の研究室で働いておりました。主に神戸の調査や、ニュータウンのマスタープランの設計をしていました。当時を懐かしく思います。一つの成果が、西神・北神のニュータウンだと思います。湊川

考へはじめました。そこで神戸芸術工科大学教授の坂本勝比古さんと保存を訴えかけたのです。が、あちこちから「あんなもののが、どこがいいのか」と言われ、あんまり相手にしてもらえませんでしたね。しかし、みんなの頑張りで残すことができたと思つています。

こと。バックにカントリーヤード、田舎があるかということ。それから、自分の生活を楽しむことができるか、さつき安藤さんが話されていた好奇心を受けとめる場所があるかということです。そして、一番重要なのが

瀬戸本 安藤さんがその後独立されて、小さなアトリエを開かれたときに、安藤さんと渡辺豊和さんと亡くなられた宮脇檀さんの三人が話しているのを聞きまして、何か変なことしゃべっていたのですよ。「建築家は顔が大事や！」と（笑）。ま、それは余談として、調査の時に気が付いたのですけれど、青谷には外国人の人が多く住んでいて、私の知人の中国人も住んでいましたし、そういう面があるのでした。いま中央区だけで人口約12万人ですが、88カ国1万2千人の外国人が住んでいるのです。宗教もいろいろですが仲良しく暮らしています。いま、世界中で、クリエイティブな人は安く暮らしています。いま、世界でできる場所を探しているようです。それには条件があります。

テロがないこと。神戸にはその条件が揃っています。私のまわりにも外国人の方が増えたような感じがあります。さて、神戸大使の安藤さんはご存じだと思いますけれど、スーパーコンピューターが神戸に来ます。それによりシミュレーション科学の拠点になり、医療産業都市とあわせてバイオベンチャーの街になることでしょう。安藤さんは「地球は永遠だと思われているのが一番の問題」、「環境は日本が発信できる大きなテーマ」、「人間は自然の中に存在する」ということを認識できる場をつくることが大事だ」と言つておられますが、この前、住明正さんという地球環境研究をされている方の話なのですけれど、スーパーコンピューターを使った細かいシミュレーションで、自分たちの生活が、未来にどんな可能性があるか具体的に予測できるそうです。安藤さんは電信柱を抜いてそこに木を植えようといふお話をされていまし

たよね。2号線なんかそうなっていますけれど、電信柱の代わりに大きな木が植わると、ものすごくきれいな場所になりますよね。

安藤 そのためには地中に共同溝を設けなければいけません。

東京では石原慎太郎さんががんばっていますが、10年以内にという計画で、中心部は5年以内に完成させると張り切っています。さて、地球は永遠だとお思いでいらっしゃる方も多いと思しますけれど、だいたい地球の人口は50億が限界だと言われたのです。いま66億人です。とりわけアジアが増えていて、この人たちが西洋人と同じような生活をしたときに、食料問題や環境破壊がより一層深刻になつていくでしょう。その一方で日本人は自然とともに生きてきた感性の高い民族です。江戸時代から文楽であつたり歌舞伎であつたり、大衆が文化に親しんだ国は世界には類がありません。そういう感性はどこから来たかというと、変化に富んだ四季が育んだと思うのです。小泉八雲をはじめ世界中の多くの人たち

が日本人の感性の良さを認めています。しかし、今の若い人はそれがずいぶんとなくなっていますね。ですから、今生きている人たちの世代でせめて少しでも回復させることができないのかなと試みています。例えば環境のために千円を募金して、自然環境と少し関わっているという意識のなかで、育んでいくのではなかと思います。兵庫県は震災を経験しましたが、非常にスピーディーに復興しました。これは、世界の災害の歴史の中では特筆すべきことなのです。神戸の人たちには「自分たちの街が好きだ」「ここで住み続けたい」という気持ちが強くあり、暴動もおきなかつたのですね。自分たちの街を愛しているという点ではすごい。これも復興に際してひとつの大いな力となりました。行政と市民が一体となつて復興に取り組んできました。これをもう一ランクアップして、神戸ならではのまちづくりをしてもらいたいですね。いま、自然がどんどん破壊されている中で、せめて我々生きている間にできることは何か考え

亦心人たちの聖地

神戸ハーバーランド街開き15周年
KOBEL 神戸ハーバーランド



profile

安藤 忠雄 (あんどう ただお)

1941年大阪生まれ。独学で建築を学び、1969年安藤忠雄建築研究所設立。環境との関わりの中で新しい建築のあり方を提案し続けている。代表作に「光の協会」「大阪府立近つ飛鳥博物館」「次路夢舞台」など。1979年「吉の長屋」で日本建築学会賞、93年日本芸術院賞、95年プリカ賞、2003年文化功労者、05年国際建築家連合 (UIA) ゴールドメダルなど受賞多数。1991年ニューヨーク近代美術館、93年パリのポンピュ・センターにて個展開催。エール、コロニア、ハーバード大学の客員教授歴、1997年から東京大学教授、現在名誉教授。

神戸は全国の中でもリ

ると、自然環境に対する意識の補強ぐらいで

しょう。

瀬戸 本 先ほど石原慎太郎さんのお話が出てきましたけれど、実は神戸出身なんですよ。

安藤 どうかなあ：（苦笑）

瀬戸 本 東京の校庭の芝生化が進んでいるの

ですけれど、その一番最初は杉並の和泉小学校でして、そこの野崎佳子校長は実は私の後輩で、彼女は神戸がオール芝生化する

という計画を聞きまして、私のところもとがんばって職員会議や保護者に賛成を得て実行に移

安藤 東京は小学校の校庭を全部芝生にするということです。難しい問題もあるでしょけれど、子どもが元気よく走り出す姿と、オリンピック目指して走り出す東京の姿勢とを石原さんは重ねて見ているのでしょうか。全小学校を芝生化し、電柱を地下化して街路樹を植樹すると、熱帯夜がだいたい1割5分くらい減るらしいです。

したのですが、困ったことにメンテナンスに年間約2300万円くらいかかると計算が出ました。これを保護者、子どもたち、先生、みんな含めてメンテナンスしようということになり、幸い関係者に専門家がいたのでうまいといったようです。それで今、都知事もオール芝生化を10年内にしようと宣言されています。そういうことも元は神戸から出ているということをみなさん知っていたみたい、そして神戸ももつと芝生化をしてほしいですね。

安藤 東京は小学校の校庭を全

て芝生にするということです。難しい問題もあるでしょけれど、子どもが元気よく走り出す姿と、オリンピック目指して走り出す東京の姿勢とを石原さんは重ねて見ているのでしょうか。

かね。全小学校を芝生化し、電柱を地下化して街路樹を植樹すると、熱帯夜がだいたい1割5分くらい減るらしいです。

ダになれるのではないかなど思います。

瀬戸 本 安藤さんも関わっていらっしゃる東京ミッドタウンの21/21DESIGN SIGHTもきれいな芝生ですが、あそこはなんでも21/21なのですか。

安藤 詳しい由来は解りませんが、三宅一生さんが21/21と名前を付けました。日本から世界へ向けて、建築や工芸、グラフィックなど、さまざま分野でデザインを発信しようという場です。500万円を毎年支払てくれるポンサーが40社あり、それで運営しています。世界へ向けて、ひとつの基地になつていると思います。まちづくりにもやはり基地が必要ですね。

瀬戸 本 30人の作家による70の作品で、チョコレートをテーマにした企画展をおこなつてましたが、中庭に展示してあつたチョコレートに蝶々が止まっていてびっくりしました。自然を感じることができました。神戸にもそのような情報を発信するデザインサイトができたらいいなと思います。今は第三次・

第四次ジャボニズムと言われて

ている。その「混ざること」がすばらしいのです。「混ざる」ことに一番抵抗がないところは神戸ではないか、そして混じり合う文化と、いう意味で一番日本的なのは神戸ではないか、と思うのです。ですからとにかく神戸が元気にならないと、日本がにならない、世界が元気にならない。

は神戸はビエンナーレにふさわしい。しかし、世界中のビエンナーレを見に行つた人が「神戸のビエンナーレは子どもの遊び場ではないか」と思うか「さすがに神戸」と思うか、そこが勝負ですよね。東京も美術館が建ち並ぶ六本木界隈でビエンナーレをしようという動きもあります。ともあれ、小さくても好奇心を持てるものをつくるなければいけないなと思います。30年50

現させていると思います。

安藤 そしてもう一つ、街が発展しないと仕事ができないのでですね。街が安定して仕事がある街になれば、また発展につながっていくでしょう。行政は方向を示すことはできるけれど、実際に景気を良くするのは市民の力ですから。そのあたりを考えると、まちづくりというものは面白いものだなと思いますね。

の名前が付いたものは多分他にないと思うのです。日本人のDNAの中には「驚きたい」「驚かせたい」というものがある。そして微妙なものが五感に混ざり合ってひとつ的世界をつくつ

年に 1 回、100 年以上もやつてきたわけですが、上

瀬戸本 居留地の南側の水上警察の建物が移動し、広場ができて海が見えるようになります。見えるだけでなく何か惹きつけていかなければいけないと思いますけれど、日々市民が訴えていることを行政の方もうまく実現させていいると思います。



profile

瀬戸本 浩（せと ひろし）1947年神戸生まれ。APECアーキテクト・日本建築協会登録建築家・一级建築士。神戸高尙、神戸大学建築学科卒業後、1977年に瀬戸本淳建築研究室を開設。以来住まいを中心に、月光庵美術館・月光庵鳴鶴などさまざまな建築を手がけている。兵庫県建築設計監理協会会員、兵庫県建築士会副会長。神戸市建築文化賞・兵庫県さわやか街づくり賞、平成15年度神戸市文化活動功労者賞などを受賞。

ありますか

年はかかるかもしれないけれど、でも今しないとずっと何もしない今まで終わります。ところで、神戸で大切にしてほしいなと思うのが、居留地の建物です。ロックフィールドの岩田社長は2号線の道路を地下化して居留地から海までまつすぐ行けるようにしましたが、私もそう思います。妾近して、いるけれども、結局は



草花で街を華やかに

第11回「花とみどりの回廊」まちづくり懇談会

安藤忠雄氏の講演に先立ち、「花とみどりの回廊」まちづくりに参画している各団体の代表者と行政の代表者、安藤忠雄氏がテーブルを囲む懇談会が開催された。



街を飾る「花あかり」

各団体の取り組み

昨年、「のじぎく兵庫国体」を盛り上げるため街を花で飾る活動が積極的におこなわれ、ビニールバッゲ状のハンギングプランター「花あかり」を各地域で装飾した。各地域からその「花あかり」についての経過や、各地域独自の取り組みなどについて順次報告がおこなわれた。

北野・山本地区では、「花あかり」は観光客にも好評で、現在も北野坂では花を選んで飾つておらず、今後も継続していきたいうレポートが。トアロード地区では街全体で飾花への関心が高く、「風の庭」や山手幹線沿いのハンギング装飾など積極的な取り組みが。三宮阪急前

商店街では花に対する関心が高まり生田筋との交差点に花壇を

設置、専門業者に依頼し常に花が絶えないようにメンテナンス。

三宮センター街では「街に花を」をキーワードに、ただ単に花を植えるだけでなくストリートミニュージアムプランを展開。期限切れポスターや違法看板の迅速な撤去にも力を入れている。鯉川山手では「花あかり」が地域

の意識を高め、「花が枯れると街が枯れる」と手入れを強化している。三宮あじさい通りでは次々と花が咲いて長持ちしたと

「花あかり」が好評。市民花壇設置を駐輪場整備と並行して検討している。みなと元町地域では、飾花や清掃、駐輪警告など

の地道な活動が結びつき、ゆつたりと散歩を楽しむ雰囲気が街に出てきたとという報告が。「花あかり」が好評という旧居留地では、プランターによる飾花を積極的に展開。三ノ宮南では磯上公園を飾るなど「花あかり」の大々的な活用や、桜苗の植樹など独自の試みも。ハーバーランドではエリア内の施設や団体と共同で花壇の管理がおこなわれ、熱心に世話をしている。

活力のあるまちづくりへ

一方で、花苗の調達、メンテナンスの費用や人手の捻出、企業の参加促進、市民サポートのよびかけなどに課題が呈され、市の協力が不可欠という意見も。それに対し石井陽一副市长は、職員を現地へ派遣して話し合いをおこない「場所に応じた取り組みを検討したい」と応答した。

安藤氏は東京一局集中化の潮流でまちづくりは難しい局面を迎えているとしながら、これからは観光を中心にする時代がやつてくる中で、花を植える運動を地道にやっていくことは大切であると神戸方式を評価。一方



安藤忠雄氏

でネットワークの欠如を指摘し、地域間、そして他都市とのネットワークの重要性を唱えた。また、「自分たちの街を守ることは、自分たちの力でやらないといけない。『何とかなる』できてしまつてはダメ」と述べ、「京都・名古屋・東京は元気。それと比べて神戸は相当がんばらないといけない」とさらなる奮起を促した。

花とみどりの回廊づくりを通して、街の景観向上やコミュニティ意識の醸成などさまざまな結実がみられるようになってしまっている。これをいかに「街の活力」に結びつけるか。それが神戸の活性化の鍵を握っている。



北野・山本地区を
まもり、そだてる会
会長 浅木隆子さん



トアロード地区
まちづくり協議会
会長 上根保さん



三宮阪急前商店街
振興組合
理事長 久野茂樹さん



三宮センター街2丁目
商店街振興組合
理事長 久利計一さん



鯉川山手街づくり会
副会長 天野浩明さん



三宮あじさい通り商店街
振興会
会長 濑川敬之輔さん



みなど元町タウン
協議会会長
元町商店街連合会会長
奈良山喬一さん



旧居留地連絡協議会
会長 野澤太一郎さん



三ノ宮南まちづくり協議会
副会長 横山政夫さん



株式会社神戸ハーバーランド
情報センター
代表取締役社長 松下綽宏さん

Basel & Geneve
2007

kamine
SINCE 1906 KOBE



三宮・元町にある時計宝飾専門店カミネが、今夏神戸旧居留地にあるザ・チャータードスクエア(旧チャータード銀行)にて、2007バーゼル&ジュネーブ新作発表会を開催。

毎年、3月から4月の時期にスイスで行われる世界一の時計の新作発表会が、「バーゼルワールド」と「ジュネーブサロン」。その世界最高峰のラグジュアリー感と、会場の熱気に包まれた様子が映像と写真で紹介された。会場には雑誌社や各ブランドのCEOなど約120名が招請され、2007バーゼル&ジュネーブの見所や今年の流行について感想を語った。

大正時代にアメリカの有名建築家J.H.モーガンに建てられた旧チャータード銀行。神戸が誇る歴史的建築物を会場に、来場者も最新の高級時計を心行くまで堪能した。



左から、カミネ代表取締役社長の上根亨氏、「時計ビギン」編集長の植田博之氏、オーデュビゲ ジャパンCEO 姜野義氏によるトークショーが行われた。



フランク・ミュラー最新作

ロジェ・デュブイ最新作

神戸のお嬢さん

Wladimir Selle de Kohl

現代っ子ですが

とても頑張り屋さん

美人で、明るく、現代的な女性である麻美さん。
でも、とても芯の強い方です。

高倉
麻美さん

(会社員)

通信会社につとめるかたわら、趣味はゴルフ。愛車
に乗ってドライブも大好きとか。また、彼女は、小学
生のときに、お父さんのお仕事の都合で2年間中国
にいたため、北京語が達者であるという一面ももつて
います。

親御さん思いの、がんばり屋さんの麻美さんに出会
うと、こちらまでパワーをいただいた気がします。



推薦者 鶴殿征二郎
松酒家
代表取締役



神戸のお嬢さん

夢に向かって
羽ばたこうとしています

此下 なつ実さん
(関西学院大学4回生)

小さいころからクラシック・バレエを習い、かわいらしかったなつ実ちゃんが、今回久しぶりに我が家を訪れました。すっかりおしゃれで美しい女性に成長していました。

現在は関西学院大学に在学中ですが、卒業後は保険会社に就職が決まっています。将来は、お仕事をしながら、家庭を大事にする女性になりたいという夢をもつていてるそうです。大おばである私も、応援しています。



推薦者 榎本靖子
株式会社アンヌーヴォ
代表取締役



まちを支える 太い幹

震災で瓦礫と化した神戸に、まちづくりの種が落とされた。校区ごと地域の人々により育てられ、復興と咲きコミュニティが実った。そのほとんどが一定の役割を終えた現在でも、確実に根を下ろしている地域組織が灘にある。

水道筋商店街やその周辺の地域団体の19団体からなる灘中央地区まちづくり協議会。その実務を担う高田さんは、被災道路の整備や商店街復興などのハードからソフトへまちづくりが移行している。

昨今、経験とアイデアで地域を飽きさせない。パソコン教室や健康相談など地元の要望を的確に捉えた企画は、「コミュニティ」という物言いより深い次元での灘の人たちとの繋がりから生まれた。

関西学院大学では、実践的まちづくりの片寄教授の薰陶を。その後神戸市のC.P.U事業に応募、灘で地縁組織系N.P.Oでさらなる実践を重ね、現在に至る。

夢を訊ねると意外な答えが。「水道筋あたりでお店を持ちたいですね」。幹から根へ。実践者のま



原色を生かした鮮やかな色調。「有

ラフィックを踊らせた。

限会社「鮮デザイン」代表を務める木村泰子さんが作成する作品には、「鮮やかに心に残る」デザインが躍動する。

父は神戸市西区で鉄工所を経営する。反抗期の高校時代、鉄粉と汗にまみれて、自分たちのために働く父の姿に胸を打たれた。「美しさとは外見だけのものではない。生きることを鮮明に伝えること」。元憂歌団ボーカル・木村充揮さんのデビュー30周年イベントでは、CDや記念パンフレットなどで、人間的な愛らしさの中に原色のグ

10代の多感な時期を神戸で過ごした。「神戸は、様々な国・趣向のお店がいっぱいいつまついて松花堂弁当みたい」。木村さんの原点は神戸にあると言う。

2006年に立ち上げた「画空（えそら）スタジオ」では、グラフィックと映像を融合させ、動画のデザインも手がける。「デザインにもジャンルや枠はありません。一つのテーマや素材からどれだけ鮮烈なメッセージを伝えていけるか」。木村さんの作品は枠がなく、無限である。



KOBECCO

2007

Yasuko Kimura

鮮やかでいたい

木村泰子

「有限会社「鮮デザイン」代表／「画空スタジオ」共同設立
esora@aza-d.com

兵庫県立美術館

「芸術の館」

新時代のなぎさの街、H.A.T.神戸にそびえる兵庫県立美術館。この地で5年目を迎えた「芸術の館」は、小磯良平、金山平三といった地元の芸術家はもちろん彫刻、版画、現代美術なども評価の高いコレクションを誇ります。約七千点収蔵と、質・量ともに見えたえのある「美の殿堂」です。

興味深い特別展や、充実したコレクション展を鑑賞するだけでなく、楽しみ方はいろいろです。館内のレストラン「ラビエールミモ」では、小粋な空間で味覚の芸術鑑賞を。テラスを望むカフェ「フォルテシモ」は、ゆったりと時間が流れています。おみやげはミュージアムショップでちょっとアートなグッズはいかが?

建物の探検も人気です。海と空の青が迫つくるような「海のデッキ」や、光が戯れる回廊など、建築家・安藤忠雄氏の意匠が随所にうかがえます。

イベントも盛りだくさん。ワークショップはもちろん、ミュージアムコンサートや名画サロ



近未来を思わせる安藤忠雄氏の設計

「美術館は敷居が高くて…」という方でも、気軽に訪ねることができるとつておきのアートスポット。特別展会期中の金曜日と土曜日は夜間開館も実施しています。涼しい潮風に誘われて、海辺の散策がてらにどうぞ来館を。



随所に何気なくオブジェなどの作品が

見どころ!! check!!



クロード・モネ《睡蓮》
1907年 油彩 キャンバス
92.5×73.5cm



会場は6部構成に



展示は時系列で並んでいる

「巨匠と出会う名画展」が好評です。質の高さで国内外から高い評価を受けている川村記念美術館のコレクションが、同美術館の大規模改裝工事のための休館によりやつて来ました。当コレクションの公開は、関西では最初で最後の機会となっています。

まるで美術史のページをめくるように珠玉の作品を楽しめます。17世紀レンブラントからはじまり、印象派、エドワード・パリとモダンアートの幕開けへと展開。ダダ、シュルレアリスムなど前衛の時代を経て抽象美術の黄金期、ポップアートへと。最後は日本アートへと。時代を超えて人々を魅了する巨匠の作品の、本物だけが持つオーラを感じてください。

兵庫県立美術館「芸術の館」

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

☎ 078-262-0901

<http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

【開館時間】10時～18時(入館は17時30分まで)

※特別展会期中の金曜日と土曜日は
10時～20時(入館は19時30分まで)

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日の火曜日)

12月31日、1月1日

【アクセス】阪神岩屋駅下車、徒歩約8分、JR灘駅下車、徒歩約10分

【観覧料】◎コレクション展

大人500円 高校・大学生 400円

小・中学生 250円

◎巨匠と出会う名画展

大人1200(1000)円 高校・大学生 900(700)円

小・中学生500(300)円

※()内は前売り料金

※県内在住・在学の小・中学生はコロナカード提示により無料

※高齢者(県内在住・65歳以上)は当日料金の半額



特別展■

-川村記念美術館所蔵-

巨匠と出会う名画展

開催中～10月8日(月・祝)

モネ、ルノワール、ピカソ、シャガール、マレーヴィッヂ、ミロ、マグリット、ポロック、カルダー、ウォーホル、ステラ、さらに光琳、大観と、美術史の王道を飾る大御所の名作が一堂に会する必見の展覧会。画集や教科書で見たあの名作と出会えるまたとない機会です。(光琳、大観の作品は9/14以降展示)